前夜祭や野外祭典
九州のうたごえ大牟田で

九州のうたごえがいよいよ近まつた。ことしは炭鉱と化学の街大牟田で「うたごえは平和の力」「うたごえは闘いとともに」「一人の仲間を」の合言葉の下に十月四日、五日の両日にわたつてひらかれることとなつた。いままでのマンネリを打破つて新しいものをと、いま大会を前に着々と準備に拍車がかけられている。

労働者の街大牟田でうたごえの祭典をーとは数年来の悲願であつたが、いよいよこれが実現するわけである。

まず前夜祭（十月四日＝土曜）を午後六時から九時まで市民会館と笹林公園でひらき、ここで創作発表会と合唱発表会、うたとおどりの会でふたをあける。

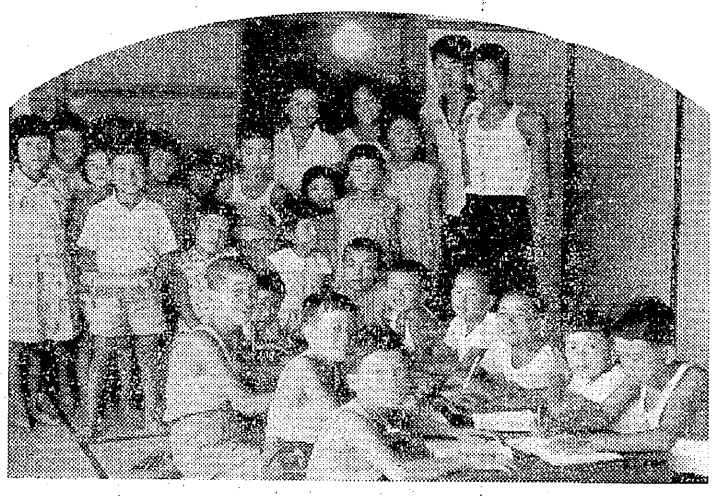
明けて五日は本祭典、まず、産業別交流会を三会場にわけ、第一会場を大牟田市体育館にしここに炭鉱、国鉄、金融、医療、専売、鉄鋼、造船、金鉱、セメント、紡績の各産業が交流しあう。

第二会場は三鉱体育館、ここに電通、全逓、司法、百貨、新聞放送、製林、運輸、化学、気象台、電力電機の仲間たちがつどう。

第三会場は市民館で、教組、自治労、自労、母親、青年団、学生、中小企業、洋裁、金属、食品、ゴム、私鉄、都市交通、朝鮮の仲間たちが交流しあう。以上の産業別交流会は午前十時から十二時三十分までおこなわれる。

午後一時三十分から四時までは本祭典、これは野外でおこなわれる。

まず本祭典の主な骨子として(1)松川の闘い(2)沖縄の闘い(3)勤評反対の闘いが準備委で集約された。



写真は西濱田分会のよい子たち

松川の闘い

八月十七日の統一行動デーを皮切りに、十一月の最終判決に向けて現地調査団を派遣、被告団の全国オルグ活動がはじまり、松川を守るうたを「ひとみ」「真実の勝利のために」外三曲つくられた。一番関係のふかい国鉄、電機の労働者を中心にとりあげひろげて行き九州のうたごえに被告団をよんで激励、真相をつたえる。

勤評反対の闘い

平和のための民主教育を守る闘いは、ひとり先生だけのものでなくなつてきつつある。和歌山闘争のなかから「黄色いリボン」のうたがうまれ、大牟田センターも集団創作にとりかかつた。佐賀のうたごえでは、佐敷組が出演することになつている。福岡県職組を中心に、炭婦協その他にひろげて行く

沖縄の闘い

核武装阻止は、今年の世界平和大会の中心課題だつた。この大会の成果を、ミサイル持こみのなかで初の〃沖縄のうたごえ〃を準備し平和のうたごえをひろめている沖縄の現地代表とともに、祭典の舞台でうたいあげて行く。なお、大牟田の奄美大島の人たちのおどりとともに、郷土民芸を披露してもらう。

以上の三つを骨子として、テーマソングは「松川のうた」「黄色いリボン」「原爆禁止のうた」のなかから歌唱指導曲をえらび、各地のうたごえでもひろげて行くことになつた。

なお、野外での本祭典では特別出演として井形バレー団、がたいねおどり、佐賀浮立、朝鮮の出演が予定されている。

足あと

炭婦協の結成、企闘での働きを契機に三池炭婦協の働きは一躍脚光を浴び、従来の炭鉱のオカミさんの観念を根底からくつがえして、驚異の姿を世間の人々にうえつけた。戦前の炭鉱の主婦とは百八十度の転換ぶりである。

納屋に住む主婦たちは、主人たち以上に環境に同化してしまつていた。自分たちの不遇なことも、人間扱いにされなかつたことも、これを当然のように思つて……。

一日の仕事といえば夫を職場に送り出したあと、押車をおしてバイカンバ（売店）通いをする。帳面さえ持つて行けばなんでも買えた、あたえられた環境にありがたいとさえ思つていたのである。

こんな話さえいまでは不思議なくらいだが、ある朝、夫は地下足袋をはいて出勤しようとしていた出会いがしらに世話方さんが急用らしくヌーツとはいつてくるや手紙を夫の前にさし出し「今日から会社にゃ出らんでよかぞ」……何のことはない首切状だ。五十二、三になるこの人は、真面目に働いていたが老令を理由に間引きされたのだ。怒つてもその怒りをどこにもつて行きようもない。妻に向つて「今日から出らんでよかばなバイ」といつたきりだつた。井戸端で近所の主婦に話をしても、気の毒ですねといわれたきりだつた。こういうことはそう目新しいことではなく、当り前のことだつたのである。

こういう状態が終戦までつづいたのだつた。終戦、組合結成、目まぐるしい時代だつたが新しい時代の息吹きは眠つていた主婦たちの目をさますのに十分だつた。

そのころまで、組合や主婦に働きかけることはそう力を注がず、会社の方で労務政策として婦人会をつくつたり、お茶摘

いまでは学習も
目覚ましい炭鉱の主婦

戦後数年もたつと、いままで与えられた組合だつたが、これは自分たちの手で自分たちの組合にしなければならないと真剣に考える人たちもようやく多くなつた。こういうとき六十三日ストがおこり会社は自分たちの親みたいに日頃いつているが、そうではなく、労働者の体から利益をしぼりとつているのだということが組合員の頭に浸透してきた。それとともに主婦たちも組合の情宣などを通じていよいよ搾取の実体がわかつてきた。

そのころまで、組合や主婦に働きかけることはそう力を注がず、会社の方で労務政策として婦人会をつくつたり、お茶摘

青年団が指導を
よかつた地域の夏休み

楽しい夏休みもおわり、よい子たちは二学期に胸をふくらまして元気に登校しているが、とくにここ西浜田社宅の児童たちは夏休み期間中ずつと青年団の兄さんたちから勉強をならい、充実した夏休みをおえて一しおうれしそうである。

地域の組合員、主婦たちもこの青年たちの夏季学習にはとくに敬意をはらい、ひじょうに感謝している。

ここの青年団は男女十八名で組織され、地域の中学卒業生を会員としてつくられている。結成は日が浅いが、地域社会の一員として会員相互の融和親睦をはかろうというのが契機となつてつくられた。

ちょうど児童たちが長い夏休みにはいつたので、夏季学習をおもいたち、会員がお互いに協力してやつていこうときめ、七月の夏休みにはいるやこれにとりくんだ。

五・六年生が朝七時から八時まで一・二年の低学年は十時から十一時までの午前中、そして三・四年生は午後六時から八時までと時間割をきめて実施された。会場は集会所がつかわれた。

学習は文化関係と体育にわけておこなつたが、はじめての学習で子供たちもめずらしがつて、騒ぐのが多かつたが、熱心な青年団の指導に影響され、すこしづつ温和しく勉強するようになつた。そして夏休みももうすぐ終りだというころになると、生徒の方から逆に家まで迎えにくるという状態にまでかわつていつた。

対象は小学生だけであつたが、中学生からも希望者が出てくるしまつで、このはじめての企画である夏季学習もなかなか地域では好評だつた。

とくに青年団のリーダとして熱心に指導した高木さんは

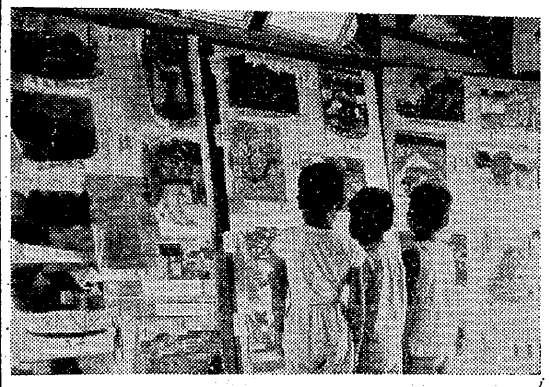
地域の人たちの援助でどうやら一夏計画通りすごすことができました。はじめはとてもむずかしく、やめようかと思いましたが会員の協力や子供たちもよく勉強するようになり、苦しみが楽しさにかわり、最後までつづけました。夏休みの成果をみてこんどの計画をたてたいと思つています。

と語つていた。

主婦会分会長の広田さんは

まじめな青年団としていつも感心していましたが、夏休みは学習まで計画され、子をもつ親として大変感謝しています。

これは青年団の方々が、日ごろから地域活動を熱心にやつておられる表われが、よい子たちをつくろうという考えに発展したものだと思います。生活革命運動の児童対策のひとつとして学習活動はよいことだつたと思います。と語つている。



展示会ひらく
檜で児童画・写真

緑ガ丘檜分会では月末から二日まで集会所で児童画・写真の展示会をひらいて好評をえた。

檜分会では夏休みを利用して七月二十六日から二十八日までの三日間、長洲海岸で臨海学校をひらいて学習、体育にはげんだが、ここで児童たちが描いた図画を審査して展示したものである。

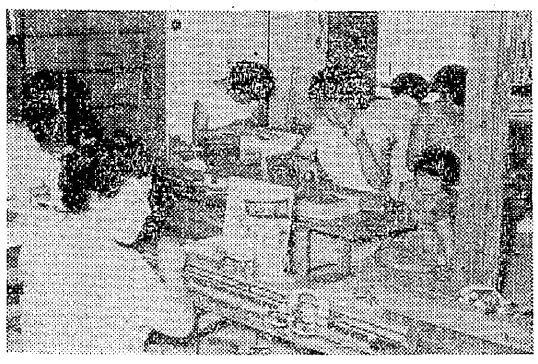
また、分会では今年度にはいるとともに、写真サークルを結成、お互いの技術をみがいてゆくことになり、サークル活動をつづけてゆくこととなつた。こんどの児童画展示会と一緒にいままでにとつた作品を選び展示したものだが、児童画は小学三年生より中学三年生までが出品、「総計一一六点写真は四七点であつた。

残暑もいとわず
大島で編物講習会を

主婦会西山支部大島二・三分会では、これから寒い季節にむかうとともに必要になつてくる毛糸製品を、自分たちの手で編み、衣料費の節約をしようと、編物講習会をひらいた。

会場を集会所にあて、隔日ごとに朝から希望者があつまつて講習をうけているが、集会所は編物機械をもちこんだ主婦たちでギツシリ講師の手ほどきをうけながら、熱心に残暑のなかで汗をふきふき講習をうけている。

これでことしのわが家には、お母さんの手になるジヤケツやセータがお目見えすることだろう。



裏と表

荒尾の或る農村地へ、保守系の某議員が、焼酎一升とテンプラ持参で、大見得切つて

「今回の水の放出については私が会社と強力に交渉して、放出させました」

と次の選挙へ布陣。そこに、革新系の某議員が来て

「お前が何んぼやつたか、もういつぺん云うてみろ」

と詰めよつたら、豊作前の稲穂の様に頭を下げるばかり。おまけに、持参のテンプラにアリが二、三匹、持つて来たのが焼酎。

「お前は農民に虫のついたテンプラを食はせて、焼酎でゴマカスとか」

これには保守系議員も三十六計、とにかく、市民の前と議会取引に表裏が多すぎる。

禁酒宣言

最近主婦会の役員の人達も多忙で、母親大会、世界平和大会、主婦会評議員会となかなか大変である。

主婦会の中央評議委員会でもその報告は堂にいつたもので、筋が立つていると感心していた若手執行員に、先輩の某執行員が「女性には酒をのむ時間がないので勉強が出来るんだ、禁酒をしなさい」と宣言。

わが子可愛いや

バスの中で物知り顔の一主婦が「先徒を採点する先生が、自分達に採点がつく勤務評定に反対するのはお可笑しいと思うわ」としやべつていた。

その主婦がバスから降りると、残つた主婦が

「自分の子供に良い成績をつけてもらおうと、校長さんのところにお百度踏んだ人がよくあんなことをいえたものですね」

ソコです。

金持や権力者の子弟によい成績をつける先生を多くつくるために、勤務評定を実施しようとしています。金持や権力者の云うことをよく聞く先生が勤務評定は甲で、正直で勇気のある先生は不適の器として丙ということになる。

絶対反対！

被爆者義捐金
荒地評で呼びかけ

荒地評では原水爆による犠牲者を救おうと、八日より十七日まで映画「千羽鶴」を上映して、犠牲者義捐金をつくることとなつた。

美しい押問答
寄贈の応接台めぐり

緑ガ丘若葉町の前田秋吉さんの長男伸生さんは、去る六月十四日社宅横の小川で溺死されたが、そこは四年まえ楓町の梶田さんの子供さんが溺死された魔のふちであつた。

そこで地域分会および主婦会では放置していた責任を痛感、抜本的な対策をいそぐ一方、八月十六日には楓町と共催で合同慰霊祭をおこない、地域分会で精霊流しを実施、両君の冥福を祈るとともに、三たび犠牲者をださないよう誓いあつた。

ところが、これに感激された前田さんは、集会所用として応接台の寄贈を申しでられたが、役員会はこの寄贈はうけるべきすじあいのものではないとして、代表者をきめて前田さんの説得にあたつた。しかし、仲間同志のことてほほえましい押問答をくり返すばかり結局集会所用として使わしてもらうことになつたが、これについて分会長の中尾氏はつぎのように語つている。

伸生君の死はわれわれの責任だ慰霊祭にしても、お礼などいわれる事はもちろん、とくに立派な応接台などは絶対におうけすることはできない。しかし、押問答のすえ使わしていただくことになつたが、その過程で私たちと前田さんご夫妻とのあいだには仲間同志ならではの美わしいやりとりがあり、すつかり感激している。

（若葉分会長）